



## ニクソン訪中は緊張緩和の試み アジア諸国との盟邦関係変わらず

### 米大統領特使リーガン（カリフォルニア州知事） 記者会見

1971年10月23日

帝国ホテル「蘭の間」

司会 江尻 進（日本新聞協会）

通訳 西山 千（アメリカ大使館）

1971年7月15日、頭越しのニクソン訪中計画の発表（中国訪問は72年2月21日）に日本中が驚いた。訪中声明から3カ月後、大統領特使としてリーガン氏（当時のわが国のマス・メディアの呼称・表記はレーガンでなかった）は、台湾のほか、タイ、ベトナム、韓国、日本などを歴訪した。

この一問一答にも、フォード大統領、カーター大統領の後、第40代大統領に就任して、「強い米国」の復活と対ソ強硬路線を貫いた氏の面目が躍如としている。

© 日本記者クラブ

ジェームソン（ロサンゼルス・タイムズ）  
大統領の特使として、佐藤総理、福田外相と  
会見した際の話の内容を詳しく伺いたい。

答 話し合いの内容についてはまだ大統領に報告していないので、細かく話すわけにはいかない。概論的に申しあげると、最近大統領が経済政策や中国訪問などいろいろの政策を打ち出している関係から、どのようなことになるのだろうかと憂慮の念や憶測が出ているので、それらの面について話し合いました。特に大統領から直接命を受けまして、「われらの政府の考え方フィロソフィーには何ら変化はないのである」ということを伝えました。経済政策については、これは一時の政策で、アメリカは決して孤立主義、または保護貿易主義に帰っていくのではないのだ、ということを強調いたしました。こういうことは大統領や政府の政策にも反することです。また訪中につきましても、これはただ世界の緊張緩和のための試みであって、同盟を結んでいるアジア諸国の盟邦との関係をなんら変更するものではないのだということを、これは今回訪問したいずれの国でも申しました。さらに私はカリフォルニア州貿易使節団の団長という資格もあるので、わが州と日本との貿易の問題について話し合いました。

大原（日経） 来年の大統領選挙の指名候補に立候補されるかどうか。その場合ニクソン大統領との関係はどうか。さらに知事の来年の大統領選挙に対する見通しについてうかがいたい。

答 私はすでに立候補しない、指名をうけても私は受けないと表明しております。同時に私は公けにニクソン大統領を支持すると発表しています。選挙の見通しですが、私はつねに楽観的に何かを言うのをちゅうちょしております。なぜかと言えば共和党は少数党ですから、反対の方の党を説得する努力が必要だからです。

今井（フジテレビ） 副大統領候補に民主党コナリー財務長官が推される可能性が強いという噂がありますが、この点についてどうお考えですか。また知事はだれが副大統領候補になることが望ましいと考えられるか。

答 コナリー財務長官が共和党の副大統領になるとすれば、まず第一に党籍を変えなくては行けないが、今までのところそういう兆候は見えておりません。選挙法の細かいところをいま覚えては行ませんが、党籍を変えんとするならば比較的早い機会に、これを行わなければ行けないわけです。しかし私はコナ

リー氏がそういう意図を持っていないのではないかと思います。いろいろ政敵から攻撃はありますが、私は、彼が立派な政治家だと思っていますし、大統領もそう考えています。共和党内の世論調査をみても、アグニュー氏が支持されているという結果が出ています。

**ジェームソン** 中華民国の指導者と会われた時に、米軍を台湾から引きあげるようなことはしないと、北京に対して第七艦隊の台湾海峡からの撤去を約束しないと、そういう話をされましたか。

**答** そういう問題は話の中に出ておりません。蒋介石総統、総理などと長い間話し合ったが、いちばん憂慮していたのは、ニクソン訪中に際し、中華民国が交渉の材料にされることがあるのではないかと、ということでした。私は、米国と中華民国は同盟関係にあるのであって、私どもの約束はかならず守る。大統領の訪中は、相互のコミュニケーションを良くするためであって、緊張を緩和するひとつの手段にすぎないと説明しました。

**アダムズ**(サンフランシスコ・クロニクル) 共和党保守派の人びとは、アメリカの対中接近と中華民国に対するやや冷たくなっていく傾向をどう見ているか。第二に、もし台湾が

国連から追放された場合、共和党保守派はどういう態度をとるか。たとえばバックレー上院議員は、国連からアメリカは脱退すべきだ、などと言っていますが。

**答** 第一について、最初は非常に憂慮いたしました。というのは戦後、アメリカはしばしば鉄のカーテンの向こう側、また竹のカーテンの向こう側の国々に対しましては政策上で失敗している、という気持ちを持っているからです。ところが大統領が、元の友好国は見捨てないんだ、政策にはなんら変更はないんだということをはっきり言明したので、私も保守派の一員ですが、もう一辺見直したわけです。最近、私もカリフォルニアの共和党の集まりで、今の大統領は、前の何代かの大統領とは別の党の大統領であるということを忘れてもらっては困る、つまり自由諸国と共産圏の間のイデオロギー的な相違が何であるかをはっきり認識している大統領であると話した。何か妥協するためだけの政策ではないのだ、ということをご皆さんに思い起こしてもらったわけです。

第二の点について、アメリカの政府がそれに対して何をやるのかは知りませんが、しかしアメリカの一般の国民はこれについて憂慮するでしょうし、政府がそれに対して何らか

の方策をとらなければ不満を表すでしょう。  
私個人の意見としては、アルバニア決議案は政治上の便宜上のもので、不道德な行動であると考えておりますし、またアメリカの国民もそのように考えていると思います。

**大原（日経）** 昨日、共和党のゴールドウォーター議員が上院本会議で、日本の軍事大国としての将来に警告を発するような発言をしているが、知事もそのように考えているか。

**答** その発言の全文を知らないが、ゴールドウォーター議員は日本は経済力にたけてきているので、もしも日本が望んだなら軍事大国にもなりうるような力と能力はあると述べたようです。しかし、日本にそのような意図があるかどうかについては別に触れていない、とそのように私は読みとったわけです。

私自身、日本を訪れて感じたことは、日本の国民もアメリカと同じように日本の防衛のために必要な信念はありますが、他国を侵略するような意図は全然ないと感じたわけです。このことは共産圏の国と大きく違うわけです。共産圏の国がああマルクス主義の一つの原則、つまりその制度を世界の国々に押しつけなくてはならないという原則さえ捨ててくれるならば、今でも平和を世界にもたらすことができるわけだが、これが私は唯一の

平和に対する脅威だと思っています。

**カーブ（UPI）** ニクソン大統領はグアム・ドクトリンの中のひとつの発表として来年5月までにベトナムからの兵力を全部引き揚げてしまいたいといっているが、もし南ベトナムが崩壊してしまうような事態になれば、兵力を増強する、ということが考えられるでしょうか。

**答** そのような恐ろしい可能性があった場合はどうかということですが、大統領が引き揚げるという場合には2つの条件がある。ひとつは、北ベトナムから入ってくる共産軍が自国を守る能力にかかっている。第二に米軍が引き揚げることによって米軍の捕虜が危険にさらされるというようなことがあってはならない、と言っている。したがって、この2つの条件が満たされる限りにおいてベトナム化ということが果たされるといっているので、すでに大統領が、これについて回答を与えているのではないかと思います。

**ジェームソン** 知事は始めベトナムに行くという計画だったが、途中で、とり消された。そしてまたベトナムに行くようになった、この理由は何か。

**答** 計画をたて始めた時、私はぜひベトナム

ムに行きたいと考え、大統領もそれを全面的に支持してくれたわけです。ところがスケジュールを組み始めていると、私の日程の中にとてもそれを組み入れることができないことが分かって、私は出発したわけです。ところが道中でアメリカの新聞が、しきりにそのことについて憶測を始めたので、大統領が、連絡を寄こしてサイゴンに行くようにという話しがあったのです。私はそれに同意したわけです。そのため、私は、朝食をバンコクで食べ、昼食をサイゴンで、夕食をソウルでとるというような記録破りの忙しい1日になったわけです。

文責・編集部

\* ちなみに当時のクラブ会報（71・11・10）のフロントページは、前月の三つの昼食会について書いている。一つは200名を超えた佐藤総理の昼食会。あと二つは宮本委員長とリーガン知事。後段の部分を引用してみる。

宮本委員長（4日）の参加者は70名。共産圏訪問のみやげ話を中心だったが、将来の政権構想にもふれ、さらには日中議連訪中団の北京声明を批判したため、翌朝の新聞紙面をにぎわせた。カルフォルニア州知事で米大統領特使の資格で来日したリーガン氏の昼食会は、参加者40名でさびしかったが、翌年

の大統領の問題を中心に熱心な質疑応答が続けられた。